

『現実からまなぶ国際経済学』

伊藤萬里・田中鮎夢 著

国際領域 桑原田 智之



『現実からまなぶ国際経済学』
著／伊藤萬里・田中鮎夢
出版年／2023年
発行所／有斐閣

本書は、米中貿易摩擦、コロナ禍、ウクライナ戦争等により国際経済・貿易をめぐる情勢が揺れ動く中、「国際経済・国際貿易は私たちにどう関係しているのか」との問いかけを根底に置き、経済データや政治・経済情勢から国際経済・貿易を説明し、理論部分でも日常的に身近な企業・製品を豊富に取り上げ、現実との関わりを明確にしながら基本的なモデルを解説することを試みる内容となっています。

まず、第一部「グローバル化する世界と国際経済学」は、世界経済の変化を主にデータから捉え、貿易・移民・サービス貿易・デジタル貿易など複層的なグローバル化の進展、グローバル化の揺り戻しとも言える保護主義の台頭の要因やメカニズムを示しています。また、急速に進展するグローバル化を企業の視点からどのように考えたらよいか分析の枠組みを提示しており、企業による外国直接投資、海外生産と国内生産・国内雇用、生産工程レベルの国際分業について、理論的背景と現実社会の動向を組合せて説明し、読者がバランス良く理解することを可能としています。

第二部「なぜ貿易は行われるのか」においては、技術が貿易を決めるとの観点からリカード・モデル、生産要素が貿易を決めるとの観点からヘクシャー＝オリーン・モデル、企業外部や企業内部における規模経済性と貿易との観点から新貿易理論、企業の異質性を貿易理論に組み込み生産性の高い少数の企業のみが輸出できることを理論的に示したメリッツ・モデルなど国際貿易を説明する上で発展を遂げてきた理論について現実経済の実例に当てはめながら理論的説明を平易に行っています。

第三部「貿易問題と解決の枠組み」では、政策的な話題、国際貿易ルール、格差問題に焦点が当てられています。具体的には、貿易政策（輸入関税・数量制限・輸出税・輸出補助金）の効果について、小国・大国、完全競争・不完全競争の場合に分け、経済厚生に与える影響を、実際の経済社会に当てはめ

ながら示しています。

また、モノ・サービス・知的財産に係るルールを包括的に概括すると

ともに、地域貿易協定の影響と課題について理論的整理を行った上で、地域貿易協定や貿易障壁の貿易への影響の測定方法について、重力モデル（グラビティ・モデル）を用いた事例を明瞭かつ平易に示しています。さらに、グローバル化が格差拡大に関係するという理論的な経路や実証的な証拠はあるかとの問いを基に、海外生産と賃金格差のモデル（フィーンストラ＝ハンソン・モデル [1997]）、生産工程の海外移転と賃金格差のモデル（グロスマン＝ロシー＝ハンズバーク・モデル [2008]）、貿易と不平等に関する異質な企業モデル（HIRモデル [2010]）等の理論的枠組みや、これらに基づき諸般の実証研究の結果を示しています。

さらに、補論においては、重力モデルに関して統計分析ソフトStataを用いて実行する手順・解釈方法について具体例を用いながら詳細に示しており、初学者が実証分析を自ら実際に行うことを可能とするよう橋渡しをする内容となっています。

本書は、事例として農林水産分野を豊富に取り上げて分析しており、関係者にとって理解を深めやすい内容と言えるのではないのでしょうか。例えば、マグロ貿易に対する貿易政策（関税等）について経済厚生分析が示されているほか、EUの共通農業政策下における輸出補助金、ロシアによる小麦等穀物への輸出税を事例とした解説が行われています。

本書に示された豊富な図解や現実社会の動向を絡めたコラムは、国際経済学の教科書という枠を超えて広い読者を射程に入れています。揺れ動く国際経済・国際貿易について、私たちにそれらがどのように関係しているのか、その事実や理論的背景を平易かつ明瞭に示した秀逸な書籍と考えられます。是非お手にとってみて下さい。